

ピロリ菌

をご存知ですか

ピロリ菌は、50歳以上の日本人の約80%が保菌しているといわれています。ピロリ菌は、私たちの体にどのような影響をおよぼすのでしょうか。

まだ、あまりよく知られていないピロリ菌と、それが原因で引き起こされる病気などについてお伝えします。



●問い合わせ 保健医療課健康支援室 ☎53-2111 (内線262)

ピロリ菌とは

ピロリ菌の正式名称は「ヘリコバクター・ピロリ菌」。長年にわたって人の胃に棲みつく細菌です。

飲食物から感染する経口感染がほとんどで、多くが幼少時に感染すると考えられています。

ピロリ菌の診断

ピロリ菌を保菌しているか診断する方法には、内視鏡検査、尿素呼気、抗体検査(血液・尿)があります。

検査費用は、抗体検査だけなら3,000円程度で受けることができますが、内視鏡検査などと併せると高額になることがあります。

心配な場合は、事前に受診する医療機関にお問い合わせください。



ピロリ菌が原因とされる病気

ピロリ菌に感染すると、ピロリ菌が発するアンモニアや毒素などによって、胃の粘膜が炎症を起こします。

この状態が長く続くと、胃を中心としたさまざまな病気が引き起こされると考えられています。

その主なものには、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、萎縮性胃炎といった病気が挙げられます。

また、場合によっては胃がんを発病することもあります。



こんな症状、ピロリ菌が原因かもしれません

ピロリ菌の治療

世界保健機関(WHO)が発がん作用のある細菌であると認定したピロリ菌は、除菌治療により、がんの発生率が抑えられ、胃がん予防に効果があると証明されています。

除菌治療は、胃酸を抑える薬と2種類の抗生剤を7日間、内服するだけです。

費用は、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、慢性胃炎の除菌治療には医療保険が適用されま

すが、それ以外の治療は全額自己負担になります。

ピロリ菌がいるからといって必ずしも治療を受けなければならない訳ではありませんが、前述のような病気や胃がんを発生するリスクもあると言われています。治療が必要かどうかは医師と相談することをおすすめします。

